

イースター休暇と神奈川県内インバウンド消費の関係

2024年6月4日

調査部 副主任研究員 白須 光樹

2024年3、4月の欧米豪からの訪日客数は過去最高

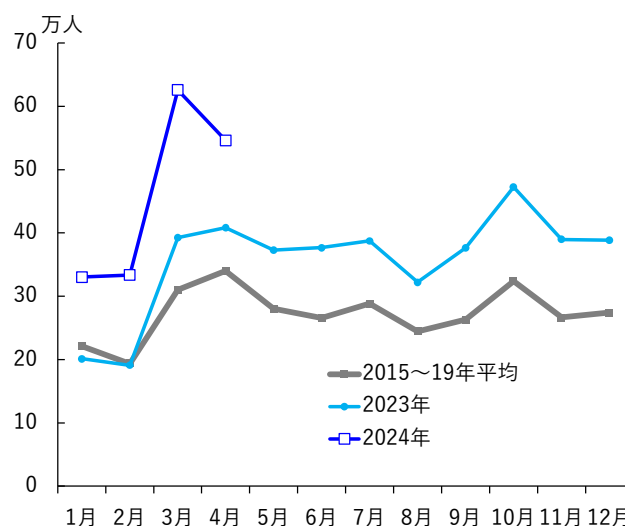
インバウンド消費が好調である。日本政府観光局（JNTO）が2024年5月15日に発表した4月の訪日外客数の速報値は約304万人となり、3月に続き300万人を超えた。なお、3月は統計を遡れる2003年以来、過去最高の水準であった。歴史的な円安を背景に外国人にとって日本への旅行が相対的に割安になっていることなどが影響していると考えられる。

過去最高だった3月については、JNTOの報道発表資料において、桜のシーズンで訪日需要が高まったことと、イースター休暇が今年は3月下旬から始まったことが、理由として挙げられている。

キリスト教のイベントであるイースター（復活祭）は、毎年3～4月の間で日にちが変わる。キリスト教徒の多い欧米や豪州では、イースターの前後が祝日となる国や地域が多く、海外旅行をしやすい。このため、欧米や豪州からの訪日客は3月や4月に増える傾向がある。

実際、欧米主要国や豪州からの訪日外客数の動向を確認すると、コロナ禍前の5年間（2015～19年）の平均で、訪日外客数が最も多かったのは4月であり、3月も3位だった（図表1）。

図表1 訪日外客数（北米+欧州+豪州）
2024年3、4月の欧米豪からの訪日外客数は過去最高



注：2024年3月と4月はJNTOによる推計値。推計値が公表される英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、米国、カナダ、メキシコ、豪州からの訪日外客数を合計した。北欧地域という系列も推計値が公表されているが、2022年以前の系列がないことや、図表2、3の欧米豪客の概念に近づけることを考慮して、除外した。

出所：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客統計」より浜銀総研作成

今年のイースターは3月31日だったため、3月下旬から休暇を取得した欧米や豪州の人々が多かったとみられる。図表1をみると、今年3月の欧米主要国や豪州の訪日外客数は昨年の1.5倍以上となった。4月も1.3倍を超えている。図表1に示した9か国の合計値は、3月と4月だけで100万人を超えており、2003年以来、過去最高だった。

神奈川県は欧米豪客の割合が相対的に高く、イースター休暇時の訪日動向は重要

このようなイースター休暇時の訪日客数の動向は、神奈川県内のインバウンド消費にとっても重要と考えられる。コロナ禍前から神奈川県は全国に比べて、欧米や豪州からの宿泊客数の割合が高い傾向にあるためである。図表2では、欧米や豪州（統計上確認できる8か国）からの延べ宿泊者数と、それが外国人延べ宿泊者数の全体に占める割合を表示した（従業者数10人以上の施設）。これをみると、欧米や豪州からの延べ宿泊者数が全体に占める割合は、コロナ禍前の2019年もコロナ禍後の23年もともに、神奈川県は全国よりも10%ポイント程度高いことが分かる。

また、図表3に示したように、神奈川県の外国人延べ宿泊者数は、春に欧米客や豪州客が押し上げる傾向にある。5月31日に発表された3月の神奈川県の外国人延べ宿泊者数も欧米客や豪州客が伸び、非常に良好な結果だった。今年のイースター休暇時に神奈川県を訪れた欧米や豪州の人々も多かったと考えられる。

このような神奈川県の傾向について、明白な理由を示すことは難しいが、欧米や豪州の人々が好む観光資源が神奈川県に存在していることや、米軍基地の存在が影響している可能性を指摘できる。神奈川県が発表している「外国人観光客実態調査」をみると、コロナ禍前の令和元年度（2019

図表2 全国と神奈川県の外国人延べ宿泊者数に占める欧米豪客の割合
神奈川県は欧米豪の宿泊客が多い

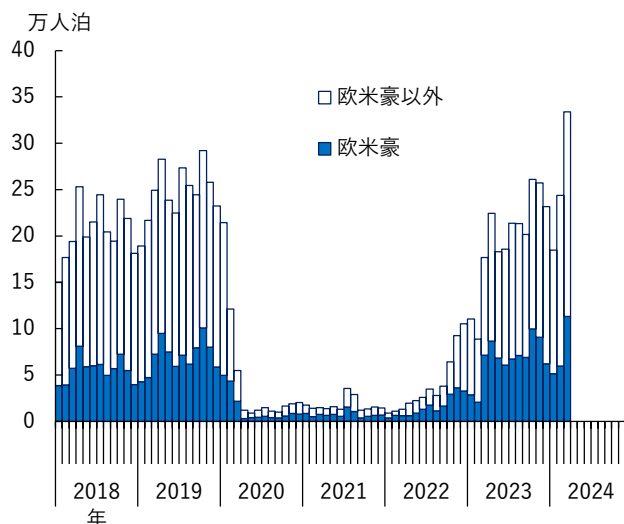
		欧米豪客の数 (万人泊)	欧米豪客の割合 (%)
2019年	全国	1,807.4	17.8
	神奈川県	84.3	28.5
2023年	全国	2,219.5	23.9
	神奈川県	79.5	33.9

注1：米国、カナダ、英国、ドイツ、フランス、豪州、イタリア、スペインの合計値。

注2：従業者数10人以上の施設。

出所：観光庁「宿泊旅行統計」より浜銀総研作成

図表3 神奈川県の外国人延べ宿泊者数
(従業者数10人以上の施設)
春に欧米豪の宿泊客が増加する傾向



注1：欧米豪は米国、カナダ、英国、ドイツ、フランス、豪州、イタリア、スペインの合計値。

注2：従業者数10人以上の施設。

注3：欧米豪以外は残差。

出所：観光庁「宿泊旅行統計」より浜銀総研作成

年度) 調査で神奈川県への訪問目的を訪ねた設問において、ヨーロッパからの来訪者は「自然観光」や「神社・仏閣」、北米やオセアニアからの来訪者は「食事」や「美術館・博物館」が、全体の平均に比べて高い割合となっている。これらの訪問目的から連想される県内の地域は、横浜(「食事」、「美術館・博物館」)や箱根(「自然観光」、「美術館・博物館」、「神社・仏閣」)、鎌倉(「自然観光」、「神社・仏閣」)だが、北米からの来訪者は横浜と箱根、ヨーロッパからの来訪者は箱根と鎌倉、オセアニアからの来訪者は横浜を訪問地域に選んだ人の割合が全体の平均に比べて高い。さらに、米国からの来訪者は横須賀を訪問地域に選んだ人の割合も高い。神奈川県内には米軍関係施設が複数の地域に存在するが、横須賀基地はその中でも大きく、基地関係者の親族や友人が多く訪れている可能性があるだろう。

もっとも、この調査結果のみで、神奈川県に欧米客や豪州客が多く訪れる理由を特定することはできない。ヨーロッパ、北米、オセアニアからの来訪者の回答割合と全体平均との差は小さい項目が多く、厳密な議論は困難だからである。神奈川県インバウンド消費をより一層拡大するためには、本県を訪れる人が全国に比べて相対的に多い欧米や豪州について、詳細な調査を実施する必要があるだろう。

執筆者紹介



白須 光樹 (しらす みつき)

浜銀総合研究所 調査部 副主任研究員

(日本証券アナリスト協会認定アナリスト)

神奈川県経済や観光を担当、為替・金利の影響分析など。

神奈川県経済や日本経済の構造分析のほか、為替や金利動向が経済に与える影響などについても分析している。

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」(無料)にご登録ください。

【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願いいたします。